

# 【概要】住宅分野における建設技能者の持続的確保懇談会 とりまとめ(R7.10)

## 現状と今後の見通し

- ・減少・高齢化率の現状と将来予測(2000年→2020年→2035年)  
大工就業者数:65万人→30万人→15万人  
(建設全体:356万人→245万人→193万人)
- 大工就業者高齢化率(60歳以上):22%→40%→41%  
(建設全体:7%→27%→35%)
- ・女性技能者の割合(R2時点):大工1.5%(建設全体2.7%)

## 課題

- ・他産業と比較して不安定かつ不十分な就労環境
- ・技能の継承の難しさと教え手の不足
- ・学生、学校、保護者からの仕事の見えにくさ
- ・女性が働くのが難しい職場環境(トイレ・更衣室 等)
- ・中小の個社による雇用・教育体制の確保の難しさ 等

## 検討の視点と方向性

### 視点2:育成環境の整備

#### <方向性>

- ・業界団体と教育機関等が連携した住宅建設技能者の重要性和魅力の発信
- ・技能者の体系的な育成体制の構築

### 視点1:選ばれる業界・職場への変革

#### <方向性>

- ・社員大工化の推進
- ・他産業に劣らない就労環境の確保
- ・キャリア形成の見える化
- ・技能者の能力評価、やりがいの醸成(CCUSなど)

### 視点3:担い手の裾野の拡大

#### <方向性>

- ・女性や外国人材が適切に働ける環境の整備
- ・高齢の技能者の活躍の促進
- ・地域の担い手の拡大  
(コミュニティ大工+施主+地域住民等)

### 視点4:マネジメントの強化

#### <方向性>

- ・地域工務店の経営基盤の強化(事業承継・M&A・アライアンスなど)
- ・新たな時代に応じたビジネスモデルの展開(維持管理(点検・修繕)、リフォーム、木造建築物など)
- ・生産性の向上に向けた技術の導入・活用(パネル化、DX・AIなど)

## 【実現したい社会】

他産業に劣らない就労環境の下、住宅分野の建設技能者が確保され、  
結果として、質の高い住まいの安定的な供給と適切な維持管理・更新が行われる社会

➡ 今後、住宅分野の担い手確保に向けて官民で連携して取り組むための中長期ビジョンを策定